

## 平成13年度試験研究成果

区分	普及	題名	平成14年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤，殺菌剤		
[要約] 平成14年度の岩手県病害虫防除基準の改訂にともない、新規に採用した殺虫剤と殺菌剤および変更事項の概要を示した。					
キーワード	病害虫防除基準	殺虫剤、殺菌剤	改訂事項	病害虫部 病理昆虫研究室	

### 1．背景とねらい

平成14年度の防除基準編成会議に提案して新たに掲載されることになった内容、新規採用薬剤、および主な変更事項を紹介し、病害虫防除対策の資とする。

### 2．技術の内容

主な新規採用剤および追加項目は以下のとおり。作物ごとの改訂事項は別表参照。

#### (1) 水稻

- ・種子消毒剤に生物農薬を含む新規薬剤を採用。また、種子消毒の項目を全面改訂した。
- ・箱施用剤：葉いもちとイネミズゾウムシ、イネドロオイムシとの同時防除が必要な場合の利用に限定して3剤を記載。

#### (2) 野菜

- ・ジメトモルフ・銅水和剤：きゅうりのべと病、疫病
- ・チアメトキサム粒剤：きゅうり、なすのアブラムシ類
- ・チアクロプリド水和剤：トマト、いちご、ピーマンのアブラムシ類
- ・ベンフラカルブマイクロカプセル剤：キャベツ、はくさいのコナガ

#### (3) 花き

- ・チオジカルブ水和剤：りんどうのリンドウホソハマキ

#### (4) 果樹

- ・ジチアノン水和剤：ぶどうの黒とう病、晩腐病
- ・チアクロプリド水和剤：りんごのアブラムシ類、キンモンホソガ、モモシンクイガ

#### (5) その他

- ・BT剤：コナガ防除の必要なアブラナ科野菜や地域特産野菜だけに採用していたが、果樹やアブラナ科以外の野菜にも採用し、BT剤の解説項目を生物農薬の項に新設。

### 3．普及上の留意事項

改訂項目をもとに、地域の防除体系や防除暦編成の見直しを行う。

### 4．技術の適応地帯

県下全域

### 5．当該事項に係る試験研究課題

(402)新農薬の効果検定と防除基準作成（昭和49年～、予算区分：委託）

### 6．参考文献・資料

### 7．試験成績の概要

表1 平成14年度病害虫防除基準に採用した主な農薬

農薬名〔商品名〕	対 象		使 用 方 法	採用理由および 使用上の留意点
	作物	病害虫名		
オキシリニック酸・ プロクロラズ水和剤 〔スポルタックスターナSE〕	稲	種子消毒	使用時期：播種前 使用方法：200倍、24時間 浸漬	苗立枯細菌病に対する 防除効果は単剤に優 る。
銅・フルジオキサニ ル・ペフラゾエート 水和剤 〔モミガードC〕	稲	種子消毒	使用時期：播種前 使用方法：200倍、24時間 浸漬	いもち病、ばか苗病に 効果が高い。
ジメトモルフ・銅水 和剤 〔フェスティバルC 水和剤〕	きゅうり	べと病 疫病	使用時期：収穫前日まで 使用方法：800倍	ローテーション散布に 有用。
チアメトキサム粒剤 〔アクタラ粒剤〕	きゅうり なす	アブラム シ類	使用時期：定植時 使用方法：1g/株	安価なネオニコチノイ ド剤。
チアクロプリド水和 剤 〔バリアード顆粒水 和剤〕	トマト ピーマン いちご	アブラム シ類	使用時期：収穫前日まで 使用方法：4000倍	マルハナバチ、ミツバ チに影響の少ない安価 なネオニコチノイド剤
ベンフラカルブマイ クロカプセル剤 〔オンコルマイクロ カプセル〕	キャベツ はくさい	コナガ	使用時期：定植時 使用方法：100倍、128穴セ ルトレイ0.5Lかん注	安価で薬剤処理方法が 簡易。粒剤と比較し効 果のばらつきがない。
チオジカルブ水和剤 〔ラーピンフロアブ ル〕	りんどう	リンドウ ホソハマ キ	使用時期：発生初期 使用方法：1000倍	新規登録。他の鱗翅類 幼虫にも有効。
チアクロプリド水和 剤 〔バリアード顆粒水 和剤〕	りんご	アブラム シ類、キン モンホ ソガ 他	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：4,000倍	粉立ちの少ない安価な ネオニコチノイド剤で モモシンクイにも効果 がある。
ジチアノン水和剤 〔デランフロアブ ル〕	ぶどう	黒とう病 晩腐病	使用時期：休眠期 使用方法：200倍	黒とう病、晩腐病に効 果が高い。